

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
地 方 自 治 ・ 地 方 行 政		
地方創生×SDGs×ESG投資 市場規模から見た実践戦略で甦る地方自治体と日本	赤川 彰彦	学陽書房
地方議員は必要か 3万2千人の大アンケート	NHKスペシャル取材班	文春新書
経 営 ・ 経 済		
シリーズ ダイバーシティ経営 女性のキャリア支援	武石恵美子 高崎 美佐	中央経済社
公立図書館と都市経営の現在 地域社会の絆・醸成へのチャレンジ	永田 潤子(編) 遠藤 尚秀(編)	日本評論社
技術進歩と日本経済 新時代の市場ルールと経済社会のゆくえ	福田 慎一(編)	東京大学出版会
決定版5G 2030年への活用戦略	片桐 広逸	東洋経済新報社
そ の 他		
台風防災の新常識 災害激甚化時代を生き抜く防災虎の巻	山村 武彦	戎光祥出版
支援者・家族のためのひきこもり相談支援 実践ガイドブック	原田 豊	福村出版
ポスト・コロナショックの学校で 教師が考えておきたいこと	東洋館出版社(編)	東洋館出版社
逐条国会法 第3巻	昭和54年3月 衆議院事務局(編)	信山社

紀州由来のあの飴



みなさん、年末の何かとお忙しい時期ですが、いかがお過ごしでしょうか。今年には新型コロナウイルスが流行し、いつもと少し違う年末かもしれません。年賀状を書いたり、大掃除をしたり、例年どおりのこともあれば、バーゲンセールやカウントダウンイベントは限定的になるかもしれません。私は今年「お家時間」が充実した分、大掃除が少し楽になりそうですが・・・とは言ってもいつものように、あっという間に年も暮れていきそうです。

さて、そんな慌ただしい年末を経て、年が明け、少し落ち着くころに「十日戎」がやってきます。十日戎は別名「えべっさん」とも言いますよね。

十日戎とは、1月9日(宵戎)、10日(本戎)、11日(残り戎)に行われる家運隆昌、商売繁盛祈願の祭礼で、主に近畿地方より西で行われる行事です。

同じような祭礼として東京近郊には酉の市があります。酉の市は毎年11月の酉の日に行われる開運出世、商売繁盛の行事です。酉の市では、縁起物としておかめの面や小判などをつけた大小様々な熊手、頭の芋(八つ頭など)、黄金餅などが有名です。

それに対して、十日戎では、福笹、熊手などが有名です。福笹は、野の幸、山の幸、海の幸を象徴した小判、打ち出の小槌、鯛など吉兆(子宝)と呼ばれるものがつけられています。熊手にはおかめの面と鯛などがつけられています。福笹や熊手は一般的ですが、和歌山の十日戎に欠かせないのが「のし飴」です。実は紀州特有のもので、和歌山市が発祥と言われています。

のし飴とは、棒状の飴をひらがなの「の」「し」の形にした紅(ピンク)白のねじり飴で、色は新春を祝い、ねじりには延命、長寿の意味が込められています。明治時代に創案されたのが最初とされるのし飴ですが、名前の由来は、紀州言葉で語尾につける「のし」(「ええ天気やのし。」→「いい天気ですね。」の意味)であるとされています。また、「のし」は「伸し」、「延し」とも書き「熨斗(のし)」とも掛けられたことから祝い事が末永く続くよう願いが込められて付けられたとも言われています。

来年は丑年です。「牛の歩みも千里」ということわざがあります。遅い牛の足どりでもたゆまず行けば千里の遠くまで行けることから、怠らず持続すれば成果があがることのとえです。一歩ずつ歩みを進めて1年の良いスタートを切りたいですね。

※参考資料 全国菓子工業組合連合会ホームページ、日本の祭り(2関東編・5近畿編)、日本大百科全書 持ち歩き和歌山弁、故事ことわざの辞典、和歌山市観光協会ホームページ